

議会BCP検証検討会議 最終報告資料

令和6年(2024年)3月21日

議会BCP検証検討会

議会 BCP 検証検討会議 報告資料

1 今年度の目的

- 1 令和4年度議会 BCP 検証検討会議から報告(令和5年2月24日付け最終報告書)されている昨年度の議会機能継続訓練における課題の検証を行い、対応方を検討すること。
- 2 令和5年度の議会機能継続訓練について検討すること。
- 3 その他

2 推選委員

座長		大原 裕貴 副議長
委員	あしや政風会	川上 あさえ 議員
	日本共産党芦屋市議会議員団	ひろせ 久美子 議員
	公明党	田原 俊彦 議員
	日本維新の会	橋本 隆 議員
	至誠会	中島 健一 議員
	芦屋しみんの未来	中村 亮介 議員

3 会議内容

	日時	内容
第1回	令和5年6月30日	<ul style="list-style-type: none">目的・推選委員の確認会議体の名称について協議検討事項について今後の予定について
第2回	令和5年7月31日	<ul style="list-style-type: none">課題の検討について訓練のテーマについて
第3回	令和5年8月18日	<ul style="list-style-type: none">課題の検討について訓練のテーマについて
第4回	令和5年10月3日	<ul style="list-style-type: none">課題の検討について訓練案について
第5回	令和5年11月6日	<ul style="list-style-type: none">課題の検討について訓練案について
第6回	令和5年12月8日	<ul style="list-style-type: none">課題の検討について
議会機能継続訓練	令和6年1月31日	<ul style="list-style-type: none">災害対策会議設置からブロック活動の流れについて(オンライン実施)
第7回	令和6年2月28日	<ul style="list-style-type: none">課題の検討について報告書(案)について

4 課題の検討

- (1) 令和4年度議会 BCP 検証検討会議から報告(令和5年2月24日付け最終報告書)されている昨年度の議会機能継続訓練における課題の検証結果(別紙1参照)

- (2) 議会機能継続訓練での課題(別紙2参照)

令和4年度議会機能継続訓練における課題の検証結果

議会機能継続訓練における課題	申し送り内容	検証結果
簡易担架について		
<p>1 当初、議場傍聴席から4階のエレベーターホールまでの移動を想定して導入している。</p> <p>簡易担架での運搬は10mが限界で、階段も運ぶような想定はしていない。外まで運ぶことを想定するなら別の手段を考え、簡易担架自体は買い替えの必要がある。</p> <p>この簡易担架を使用する目的をしっかりと決めるべき。</p> <p>本格的なストレッチャーも、予算が許せば備えて置いても良いかもしれない。</p>	<p>簡易担架は導入当初の想定どおり、危険な場所からの緊急的な一時移動を目的とする。運ぶ人の力を分散させるため、4人以上で運べる簡易担架の導入を検討する。</p>	<p>棒担架を備えることも検討したが、取り扱いの簡便さを重視し、強度の強い布担架を補充することとする。</p>
<p>2 自力で動けない人を簡易担架に乗せるなど、負傷者のケースに合わせての対応訓練も必要ではないか。</p>	<p>今後の訓練において検討する。</p>	<p>引き続き次年度以降の検討事項とする。</p>
オンライン会議について		
<p>1 デジタル機器に詳しくない方もおられるので、実際に試してみる機会をなるべく多くした方が良い。</p>	<p>来期以降の訓練内容の検討事項とする。</p>	<p>令和5年度の訓練はスマホを使ったオンライン会議を行った。</p>
<p>2 スマホでサイボウズを使用する訓練が必要。</p>		
<p>3 慣れが必要なので、繰り返しの訓練・練習が必要。</p>		
<p>4 ネット環境が使える前提の訓練だが、アナログでの訓練も必要。</p>		
<p>5 次回以降の訓練はブロック長会議も全員遠隔で実施する必要がある。</p>		
<p>6 ドコモは基地局が多数あり、災害にもある程度強いが、後発キャリアを使っている人は復旧が遅い可能性がある。議員それぞれのスマホキャリアが異なるため、全員つながらないのであればアナログ対応が良いが、一人だけ使えないというような状況ならポケットWi-Fiを用意して対応する、また、事務局で各議員のキャリアを把握しておくなどの対応が必要ではないか。</p>	<p>来期以降の検討事項とする。</p>	<p>災害時に携帯電話が不通になることを想定し、他の通信手段としてトランシーバーの導入を検討したが、維持管理や費用等総合的に判断し導入は見送ることとした。</p>

7	オンラインについては緊急時に慌ててやってもうまくいかないため、オンラインで代替可能な会議については、平時からオンライン会議を行うようにすることで、事務局も含めてオンライン会議に慣れておく必要がある。	来期以降の検討事項とする。	引き続き次年度以降の検討事項とする。
【資料 11】の様式について			
1	「種別」「区分」の選択肢について、該当がない場合があり得るため、その他、特に対応を要しないという項目が欲しい。 ブロックでの活動はフリーハンドで動くというよりは、あなたは A 地点、あなたは B 地点と決められて動き、かつ、なるべく網羅的にチェックしていくということを考えると、異常なしの報告もできるようにしておくべき。	ブロック活動の内容の見直しを含め、様式の見直しを検討することになるため、来期以降の検討事項とする。	【様式 1 1】を修正することと合わせ、災対本部へ引継がれた後の回答（対応結果）の管理は事務局で対応し、後で確認できるようにする。
2	報告書をイメージしにくい議員もいるのではないかと、いくつか具体例を示すことも大事ではないか。	様式の質問項目の欄に例を記載しておく。	

データの添付について			
1	画像の共有も、なるべく Google フォームで投稿できた方が情報集約には有効。 Google アカウントを持っているかアンケートし、持っていない人が少数なら取得いただき、データもフォームで送信できるようにしたらどうか。	来期以降の検討事項とする。	アカウント不要で画像が添付できるツール（LOGO フォーム）に変更した。
2	写真を LINE グループに挙げているが報告書では画像添付なし、としている方がいたので二つがリンクするような書き方の工夫が必要。		
3	状況を伝える上で写真が添付できる方が良いので Google フォームで改善できるのであれば改善し、出来ないなら違う方法も検討しても良い。		

ブロック活動における課題	申し送り内容	検証結果
活動体制について		
<p>1 実際の場合、小さなエリアで様々な事案が起きていると考えられ、限られた議員の数では地域の状況の把握に偏りが生じることもあると思うので、ブロック内で地域を分割し調査活動する必要があるのではないか。</p>	<p>ブロック内で各避難所の担当者は取り決めがあるが、運用の見直しについて来期以降の検討事項とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の想定が難しく、実際災害が発生した際に状況を見て再編することとし、現在の3ブロックのままとする。 ・有事の際にスムーズに行動できるよう、ブロック内での活動担当地域を決め、ブロック活動について協議を行った。
<p>2 災害時の非常時においては訓練のように悠長ではないと思われます。人数の多い精道や山手は、激甚被害時はブロック長に相当な負担が想像されるので、4ブロック、各5人程度の体制も検討してもいいかもしれません。</p>		
<p>3 マニュアルP54の四角囲みで記載してあるブロック活動の定義をもう少し明確化したらいいいのではないかと。</p>		
<p>4 今回の訓練でのブロック活動は議員単独行動だったが、実際の災害時には速やかに複数での行動に移ることが求められるので、その訓練も次回以降の課題。</p>	<p>今後の訓練において検討する。</p>	

その他の課題	申し送り内容	検証結果
その他の課題		
1 スマホは諸会議参加含めて常時携帯しておく方が、災害発生時には対応しやすい。会議に持ち込む検討をしてはどうか。	委員会へのスマホの持込みは、審査に資するため使用する場合に限り認められているが、本会議への持込みは認められておらず、来期以降の検討事項とする。	積極的な意見はなかったことから現状どおりとする。 参考までに阪神間の状況を調べた。
2 激甚被害時は今回のように電波や電力の供給が安定しているとは限らないため、それを前提に、さらにブラッシュアップした議論が展開されることを望む。	今後の訓練において検討する。	引き続き次年度以降の検討事項とする。
3 現在、4人議員が阪神淡路大震災を経験しています。この方々の経験談を引き継ぎたい。		次年度以降に互助会セミナーで開催することを検討する。
4 芦屋市議会BCP〈概要版〉の内容も修正があれば、作り替えが必要ではないか。 活用方法も来期に議論し、訓練で活かさないか検討してはどうか。	来期見直し事項の結果を踏まえ再作成するか検討する。	任期中1度本格的な見直しを行うこととなっており、次年度以降に見直しを始める。

検証検討会議で出た意見	対応方策
1 発災しても議会BCP発動により議会がすぐに運営できることが重要である。	BCPの内容の見直しと合わせ、次年度以降の検討事項とする。
2 BCPマニュアルは発災直後の行動については充実しているが、後日の動きがわかりにくい。	
3 感染症対策編に議会機能継続の記載はあるが、アクションカード・行動チェックリスト等、災害等の有事の際にとるべき行動が一目でわかるものが必要ではないか。	

議会機能継続訓練での課題

※訓練後総括等、アンケート結果より課題を記載した意見を抽出しまとめています。類似した意見はまとめ、表現を要約している場合があります。

1. 訓練への意識に関する内容	対応方策(案)
1 今回の訓練の反省点を踏まえ、訓練に対する議員全員の認識を再度徹底すべき。	次年度検討事項とする。
2 事前の丁寧な説明・入念な訓練内容の確認が必要。	
3 訓練の際には、ブロック長会議とはなにか、ブロック活動とはなにか、ということを冒頭に話し、意義や役割を再認識してはどうか。	
2. 訓練内容に関する内容	対応方策(案)
1 LINE は見にくい。	次回訓練案を協議する時に検討する。
2 災害情報をもっと具体的に設定した方が訓練しやすかった。	
3 全員が写真を送れるように訓練したり、例を挙げて状況の報告内容を分担したりするとよかった。	
4 オンライン参加者の承認、確認の結果について挙手アイコンを挙げさせ、録画しておくなどの工夫が必要。	
5 内容は簡素化して、訓練の実施回数を見直す(例えば会期毎など頻度を増やす)。	
6 会期中の発災、遠方出張など起こりうる状況を想定した訓練の積み重ねが必要。	
7 実地での訓練も必要。	
8 報告書の「場所」の欄に「自宅周辺」と記載されたり、被災状況などが書かれていたため、誰が見てもわかる正確な報告を記載する訓練も必要。	
9 出席確認ができなくても定時で開始する。	

3. オンライン機器に関する内容		対応方策(案)
1	オンライン機器の使用について事務局が不在でも活動が維持できるよう、議員個人のスキル向上が必要。	次年度検討事項とする。
2	定期的なオンライン会議の開催など、日頃からオンライン機器の使用頻度を高め慣れておく。	
3	災害時を想定し、すべての活動をスマホで完結できるようにしてはどうか。	
4	ズームやラインの基本操作について互助会セミナーを実施してはどうか。	議員互助会理事会に諮る。

4. BCP の見直しに関する内容		対応方策(案)	
災害対策会議	1	災害時は参加できない場合もあるため簡単な議事録や連絡事項をまとめて LINE で共有してはどうか。	会議後、連絡事項をブロック長(不在なら副ブロック長)が各ブロックの LINE グループで共有する。
	2	電池・データ使用料の消耗が大きいため、可能な限り参集し、参集できない人だけオンラインという対応にした方が良い。	マニュアルどおり参集可能な人は参集する。
ブロック長会議	3	報告された情報を市の災害対策会議に提出するかどうかの判定基準を設けておく必要があるのではないかな。	想定を超える被災規模の可能性があるため、詳細の基準は設けず、マニュアルどおりブロック長会議で検討する。
	4	情報連絡手段が確保されていれば、参集する事案が発生した時だけの開催でも良いのでは。	マニュアルではブロック長会議を開催する事となっている。
	5	少なくともブロック長の市役所への参集は不可欠では。	マニュアルでは参集必須。参集できない場合は副ブロック長以下ブロックの順位上から順に参集できる人が参集する。
ブロック活動	6	議員の担当エリアが居住地ベースのため、人数が少ないブロックは、情報収集を複数議員で行うと、活動が制限されたり、議員の被災状況により機能しない可能性もある。他のブロックからの応援を要請することも含めた、手薄になる地域への対策が必要。	手薄なブロックの長から、別のブロック長へ要請する。
	7	住民等からの申し出に対する回答(特に断る場合)が、個々の判断とならないようにする必要がある。	資料11の報告によりブロックで協議する。結果の回答はマニュアルの注意事項「アカン」をふまえ、スタンドプレーにならないよう注意する。

LoGo フォー ム ・ 安否確 認報告	8	フォーム1件につき、1か所の報告を行うなど、ルールが必要。	フォーム修正済(フォーム・報告書の冒頭に明記)
	9	2人以上で行動するので2名以上の名前が記載できるようにしてほしい。	フォーム修正済
	10	写真を2枚以上添付できるようにしてほしい。	
	11	報告場所をより詳細に示すために、写真に位置情報を付けた方が良いのではないか。	報告書への記載を必須としたうえで可能な範囲で位置情報をつける。
	12	通信の課題をクリアすれば有効なツールになる。	オンラインによる報告・紙提出による報告のいずれの手段も知っておく。